

令和6年度第1回三重県循環器病対策推進協議会 議事概要（公開版）

- 1 日時 令和7年2月28日（金）14：30～15：20
- 2 開催方法 Zoom Meetings
- 3 出席者 伊藤委員（会長）、乾委員、大内委員、片田委員、楠田委員、坂本委員、新保委員、鈴木圭委員、鈴木秀謙委員、田中委員、谷村委員、内藤委員、百崎委員
- 4 議題
 - 1 第2期三重県循環器病対策推進計画の進捗について
 - 2 三重県の循環器病の死亡率について
 - 3 脳卒中や心臓病等に関する世論調査について
- 5 内容

1 第2期三重県循環器病対策推進計画の進捗について

2 三重県の循環器病の死亡率について

<主な質疑等>

（委員）

心疾患における年齢別調整死亡率で、不整脈・伝導障害がかなり増えている。全国的に見るとあまり増えていないが、なぜ三重県で増えたのか。

（委員）

部会でもこれは大きな問題として議論した。例えば高齢の方が、お風呂の中で倒れているのが見つかって運ばれてきた。死亡診断書は結果的に致死性不整脈と書かれたというような例が散見される。それ以外の診断が下しにくいところもあって、診断を確定するに至らない場合には、何か工夫が必要かなと考えている。

致死性不整脈だから放っておいていいわけではもちろんなく、県にもお願いしたところだが、どういう年齢層だからこれで亡くなってるかという分析が必要だと思う。80代後半、90代の方だと死因は他に求めることができるかもしれない。そのあたりの調査を今後していく必要がある。

（事務局）

来年度以降、そういったご意見、視点を踏まえて分析していきたいと思う。

（委員）

心疾患で亡くなる方は、平成27年から令和5年まで増えている。母集団として心不全患者がかなり増えているということなのか。内訳を見ると心不全はそ

れほど増えていないが、心疾患があまりにも増えている。基礎疾患で心臓が悪い人が増えているというわけではないのか。

(事務局)

資料 2 はあくまで死亡者の統計から持ってきた心疾患の方々の数字が増えてきており、資料 1 の 9 ページでお示ししているのは心疾患受療率ということで、死亡ではなく受療してる方々。患者調査で 3 年に 1 回の調査で、患者数は推計値に基づいて出されているため悉皆調査ではないことに留意が必要。

外来の心疾患受療率は三重県では直近で大きく伸びているが、入院は横ばいであり、評価の難しさがあると考えている。

3 脳卒中や心臓病等に関する世論調査について

<主な質疑等>

特になし。